



7/31 見て触って浦添探求

夏休み期間中にカーミージーや浦添大公園の自然観察会など、浦添の自然や歴史文化に触れて学ぶ環境学習講座が行われました。全5回開かれた講座の初回、子どもたちはグスク研究所の當眞さんの案内で、浦添グスク・ようどれ館や仲間樋川、浦添城跡などをめぐり、尚寧王時代の出来事や当時の人の生活について学習しました。

講座に参加した小学5年生の佐久川結衣さんは「今まで石垣の壁を見ただけではあまり分らなかったけど、案内を聞いて浦添城の中の様子が想像できた」と感慨深そうに話しました。



8/16 JICA沖縄に研修員の笑顔が再び

コロナ禍により短期研修員の受け入れを停止していたJICA沖縄で、約3年ぶりに受け入れが再開され、研修員7人とJICA職員が副市長表敬で市役所を訪れました。

ブラジルやエジプト、ベトナムなど、さまざまな国から訪れた研修員たちは、数か月の研修を通して植物検疫技術や、ウチナーネットワークを活用したコミュニティ運営など、それぞれの研究分野を学びます。フィリピン出身のエルさんは研修生を代表して「母国の発展のため、新たな知識や技術を身に付けるだけでなく、沖縄の人々や文化を学び、イベントなどを通して市民との友好を深めていくことも大切にしたい」と笑顔であいさつしました。



7/22 ディアナさん浦添での新生活始まる

4月にウクライナから沖縄に避難してきたメドヴィドワ・ディアナさんが市役所を訪れました。ディアナさんは、5月からJSL日本アカデミーで日本語を学び、市内の学生寮で生活しています。JSLはディアナさんに、寮費や日本語教育の無償提供、奨学金の支給など生活支援を行っています。ディアナさんは市長に、家族が残る母国の厳しい状況や自身の近況を説明し、最後に「友人もでき、JSLの支援にも感謝している。もっと日本語を勉強して、母国での教員の経験を生かし、沖縄に貢献したい」と話しました。松本市長は「これから生活が落ち着いてきたら、日本語もたくさん勉強して、ウクライナと沖縄の架け橋になるよう頑張ってください」と話しました。



7/29・8/1 描いた浦添八景が美術館に！

浦添ようどれや当山の石畳道などの浦添八景を知り、豊かな色彩表現で描く水彩画の講座が開催され、市内の小中学生27人が参加しました。受講者は1日目に浦添市美術館友の会の運天政徳さんから浦添八景について学び、2日目は画家の山田武さんから水彩画の技法を教わりました。

参加した子どもたちからは「200年余り沖縄の中心として栄えた浦添の誇りを感じた」「水彩画を習いながら浦添八景を描けて良かった」と感想が寄せられ、地元への愛着が深まる講座となりました。完成した作品は浦添市美術館で「こども水彩画展」として披露されました。



7/30～8/1 蒲郡市との友好都市記念交流

愛知県蒲郡市で友好都市提携40周年を記念した交流が行われ、浦添市からは「浦添市空手道連盟」「前田棒保存会」「鼓衆若太陽」の合同交流団が参加しました。交流団は蒲郡まつりでそれぞれ演舞を披露し、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。また拾石町会館では「拾石チャラボコ太鼓保存会」の皆さんとの交流で、互いに演舞を披露し合い、最後は参加者全員のカチャーシーで大いに盛り上がりしました。

この交流に続き、来年2月には蒲郡交流団を本市に招待する予定です。今回の交流で友情を確かめ合い、沖縄での再会を約束しました。



7/22 身近にあるアート作品を振り返る

市内に設置されたアート作品とその作家を紹介した「浦添パブリックアート記録と作家展」が浦添市美術館で開催されました。展覧会では写真家の古堅希垂さんがまとめた市内120点の作品紹介から始まり、作家を代表して市内のオブジェや住居表示板を制作した彫刻家の能勢裕子さんと能勢孝二郎さん、画家の喜久村徳男さんの作品が披露されました。

企画した浦添市美術館友の会の金城さんは「アートのあるまち浦添を楽しんでほしい」と述べ、展示会に合わせてBENE弦楽四重奏団が作品から連想する楽曲を選曲し、語りを交えながら奏でると、作品と音楽が融合する空間に観客はうっとり聞き入っていました。

＼ 話題がいっぱい /

なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、まちの話題をお届けします。ここで“なかゆくい”しませんか。(なかゆくい＝ひと休み)

市ホームページ「うらそえトピックス」にも市内のできごとを紹介しています。



7/20 長年地域を支えた人へ感謝状

長年にわたり自治会長として地域のために尽力した永年勤続者2人と自治会長を退任された8人に感謝状と記念品が贈呈されました。

松本市長は「地域のさまざまな課題や声に耳を傾けていく重要な役柄を務めたこと、コロナ禍でのこれまでにないご苦労に感謝します」と労いの言葉をかけました。

港川崎原自治会に14年間携わった比嘉栄幸前会長は「自治会は市の支援を受け、また市も自治会の協力がが必要です。今後もお互いに支え合いながら、コロナ禍を乗り切っていきたい」とあいさつをしました。